



中央委員からたくさんの意見がでました



そういう経緯があり今は『少しでも減額変更』という交渉を行っています。もちろん納得できる金額になるまで要求していきます。●スマホ配車の必着について、時間のロスが大きいので予約料金の820円にならないのか？ (2992高田氏)

(執行部) 明番集会でも意見が出ましたが、今は全国にアプリを広げるために全力をあげているところです。もっとアプリが広がれば課金システムなどで改善される可能性はあると思います。『2017年度活動方針案』『1017年度予算案』『規約・既定の改正案』のついて満場一致で可決され、第43回定期大会で提案する議案が決定されました。

### 全自交東京地連

#### 夜の銀座地区での宣伝行動

9月30日(金)全自交東京地連は夜の銀座地区において組織拡大のため宣伝行動を行いました。12人を動員し「ライドシェア」白タク合法化阻止、「ハイタク運転者の雇用と権利を守ろう」、「公共交通機関としてふさわしい賃金水準に改善しよう」と呼びかけたピラを4か所のタクシー乗り場で待機している乗務員に合計850枚配布しました。その中でライドシェア問題や初乗り距離短縮運賃について尋ねてくる乗務員も多くいました。今後は夜の赤坂・六本木でも実施していく予定です。

## 第2回 労使協議会

2016年10月11日(火) 第2回労使協議会が行われました。

経営側からは徳山課長・志鎌課長・深澤次長、執行部からは6名出席しました。

9月9日に提出した『2016年秋季闘争要求書』について経営側から経過報告がありました。

1. 「同一労働・同一賃金」の基本原則に基づき、嘱託乗務員の基本給を正規雇用と同一の192,940に引き上げる事。

3. 全てのトイレにウオシレットを設置する事。(経営側) 前向きに検討します。

8. 「2017年度出番表」を12月中旬に準備する事。(経営側) 矢崎さんと調整中です。

9. 年始の4日〜7日の出勤者には例年通り「三笠山」を支給する事。(経営側) 支給します。

その他、高速帰路料金の会社負担についてや無線配車時の「空転補償」については現状維持という回答となりましたが、駐車棟の非常灯を更新する事、1・2階の照明を吊り下げ式に変更する事については、次回の労使協議会までに日程など具体的な回答をするよう申し入れました。また、スタッフドレスタイヤの管理については、工場長が代わったので経営側として意思統一をすることを確認しました。

最後に、経営側から稼働率をアップさせる為にはどうしたら良いのかについての逆提案がありました。

『13勤務乗った者は公出日を選択できるようにするというのはどうか?』『45,000円以上の基準を設けたらどうか?』『期間限定で行うのはどうか?』などの意見が出ました。

また、新しいメーター機・決済パッドの導入するにあたり、全台に装着する前に班長車など5台に取り付け、トラブルがあるかのチェックを行うということも確認しました。

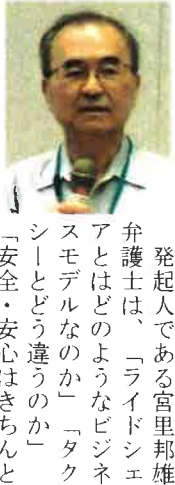


### 公開シンポジウム

#### 『ライドシェア』問題を考える 交通の安全と労働を考える市民会議

2016年9月29日(木) 千代田区永田町の衆議院第二議員会館において公開シンポジウムが開催されました。

東洋交通労組からは執行部6名・鈴木班長・一杉班長・阿實班長・藁谷班長が参加しました。



発起人である宮里邦雄弁護士は、「ライドシェア」とはどのようなビジネスモデルなのか、「タクシーとどう違うのか」、「安全・安心はきちんと確保されているのか」など、ライドシェアが抱える問題について「実態調査などを踏まえて利用者・タクシーに関わる労働者の共通の利益を追求する視点で考えていきたい」と述べました。



続いて、同じく発起人である戸崎肇氏(慶応義塾大学総合政策学部特任教授)は、「昨年施行された交通政策基本法を軸に地方交通体系を考えるべきであり、ライドシェアはバス・鉄道・タクシーの交通体系を破壊するだけでなく、交通が支えている生活そのものや文化・医療な

ども破壊してしまう。2020年のオリンピックに向けて全体が焦っている感じを受けるが、現在の交通がどのような過程を経て今の形になったのかを一度考えなければいけない。『便利だから』というだけでは誤った理解のまま共感が広がってしまう。そうならないよう対策を講ずるべきだ」と強調しました。



内田聖子氏(アジア太平洋資料センター事務局長)は「サービスマス」の視点から考察し、「ライドシェア」には業界の声が反映しておらず、一部企業が儲かる仕組みに他ならない」と問題提起しました。

タクシ乗務員代表として村瀬沙織氏、利用者代表の佐藤千恵子氏は、「日本のタクシーは女性のお客様も安心して乗れる。ライドシェアはその安全・安心に対する努力を無視している」と危険性を訴えました。



今回のシンポジウムには、ライドシェア問題について反対の声をあげている国会議員も20人以上参加しました。代表して辻元清美衆議議員(民進党)は「この集会在『ライドシェア』問題について分かりやすく訴える機会になってほしい。地方自治体関係者もライドシェアを『便利なら』『特区なら』と間違えて理解しているところも多い。地方に自治体に意識調査などを実施したらどうか」などと提案しました。

